

水道新聞

発行所
日本水道新聞社
<http://www.suido-gesuido.co.jp/>
 本社:
 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-9-9
 ☎03(3264)6721(代) FAX03(3264)6725
 下水道編集部直通 ☎03(3264)6393
 E-mail: g-pen@suido-gesuido.co.jp
 大阪支社:
 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-9
 ☎06(6125)3630 FAX06(6125)3866

施工時間が短い! 優れた耐腐食性・止水性!
管路内面補修工法
 **A.S.S.工法協会**
アールエスエス協会



Water Aqua2016

団体が出展

Water Aqua2016 第7回国際水ソリューション(CSコンベンションデザイン)、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催の11展示会合わせ4万8514人が集まり、雨水管理のスマート化やサービスなどのICT活用など多岐にわたる展示を行った(写真)ほか、出展者として明電舎、フソウ、積水化学工業に関する最先端の取り組み事例のスマート化戦略シンポジウム制度～雨水管理の高度化を実現に向けて、国土交通省下水道部の地方公共団体担当者らが雨対策に討議を行った。また、海外における水プロジェクトなど、セミナーや公開討論などが開催された。

下水道は、流入水量や流入水質が時間や季節によって変動するとともに、接続戸数の増加、人口や水使用量の減少など、インフラとされる各種データがさまざまに変化する。このため低コストで効率的、効果的に処理を

最適化していくことが求められている。この環境はすでにIoTが活用されている製造業での事例と類似していることから、IoT導入が下水道事業の課題解決に寄与するという発想が生まれた。

活用する狙いは①情報収集機器の振動や流量・水質等の各種データの収集②収集した情報の蓄積・検索③データ解析・可視化④の3段階を経て、④処理・制御業務効率化・安全性向上・品質確保・工期短縮などの最適

化を実現。これにより各分野の課題解決と最適化を図ることが、事業の全体最適化につながる。これを踏まえて、JSでは下水道事業において最大の効果を発揮する「下水道IoT」という

JS日本下水道事業団は公募型共同研究「下水道IoT(Internet of Things)導入に向けた調査研究」を開始する。IoTとは、工場の生産設備や家電などのあらゆる機器を、超小型センサーを介してインターネットに接続し、さまざまなデータを集めて分析することで、革新的なサービスや製品を生み出すとする概念。下水道インフラにIoTを導入することで、効率的かつ低コストな施設の保守管理が可能となるほか、事故・災害の抑制など事業の全体最適化にもつながると期待されている。今回の共同研究は「下水道IoT」の確立に向けた第一歩であり、JSでは共同研究者を公募している。応募期限は2月29日(月)17時半。

共同研究者 公募を開始 情報から全体最適化

JS

下水道にIoT導入

術▽省エネルギー化など、下水道の維持管理費の低減に寄与するIoT技術▽温室効果ガスの低減に寄与するIoT技術▽複数の処理場等の一体的管理に寄与するIoT技術——などが想定されている。

共同研究では、下水道IoTのルール作りのため、①下水道に係る情報の収集、蓄積・検索、解析とその結果の可視化および処理・制御という一連のサイクルの中の一部の成果——の観点からヒアリングを実施して選考を行う。応募方法等の詳細はJSウェブサイトに<http://www.jswa.go.jp/e/g2/koubooga.ta.html>を確認のうえ、

効果の実証(実施設計における検証)——の両方または②を実施する。

応募内容に関して①開発要素②研究方法・体制③開発条件への対応④実用化の可能性⑤期待される

「学」との連携強化へ

国交省 プロジェクトGAMが開始 人・研究をマッピング

水環境分野の学術研究の体系的なマッピングを実現するプロジェクトGAM(Gesuido Academic Mapping)がスタート。国土交通省下水道部はプロジェクトGAMによる討議を行った。プロジェクトGAMは、土木学会環境工学委員会・水環境学会などの「学」と、具体的な下水道事業との結びつきが弱いとの問題意識を踏まえ、

「観測開始以来、2015年は史上最高の暑さであった」として対処できない